

2019年6月19日

学校法人三幸学園
名古屋ウェディングアンドブライダル専門学校
校長 古淵 泰弘 殿

学校関係者評価委員会
委員長 大塚淳夫

学校関係者評価委員会実施報告

2018年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 大塚 淳夫 (有限会社ビバーチェ 代表取締役)
- ② 大橋 ユカリ (CANOW 代表取締役)
- ③ 藤森 真実子 (飛鳥未来きずな高等学校 名古屋キャンパス主任)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2019年5月23日 (会場 名古屋ウェディングアンドブライダル専門学校 302教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2018年度 学校法人 三幸学園 名古屋ウェディングアンドブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 山内 朝子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 大塚淳夫

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・主体性を育む教育
- ・精皆勤率の向上
- ・退学率の低減
- ・検定合格率の向上
- ・掃除、挨拶の徹底
- ・アクティブラーニングの工夫、確立

退学率に関しては、昨年度より悪くなってしまった。精皆勤率もよくないため、担任指導力のレベルを上げていく課題がある。検定合格率は各教科担当と担任が連携をして進めることができていたが、すべての検定結果が良かった訳ではないので、更なる具体策が必要だと感じる。

また、掃除・挨拶は月間目標として取り組み、教員・生徒ともに意識ができると成果が出るので、継続して取り組み、習慣化できるようにしていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

大塚委員(ブライダルヘアメイク&ドレス科について):日ごろ、先生方が一生懸命指導されていることは伝わってくるので、重点目標には社会に出てからも、とても大切なことなので、しっかりと継続して指導いただきたい。特に主体性を育む教育には力を入れていただきたい。

大橋委員(ウェディングプランナー科について):新人のプランナーにとっては、資格は大きな自信とお客様への信頼につながってくるので、頑張っていたいただきたい。それが、専門で勉強してきた結果となるので、とても大切だと感じている。継続して指導いただきたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学校の教育理念・目的・育成人物像はしっかりと定められていて、教職員には浸透しているため適切であると考え
るが、昨年度も課題として挙がっていた、生徒への周知の点がやや課題であるため、スタプロでも新入生に対して、
しっかりと導入をしているが、また、継続的に伝え続けられていないため、浸透度が不明である。

③ 今後の改善方策

定期的に教員が生徒へ向けて発信していくことが大切である。

④ 特記事項

特に無。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

藤森委員：生徒は短いスパンでもいいので、常に目の前の目標達成がリンクしていると分かれば、やれるのではな
いか？スタプロの振り返りをしているのであれば、そこで毎回、育成人物像を思い出させて継続的に伝えて浸透さ
せていくのはよいのではないかと。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

学校運営に関しては三幸学園全体で運営していることが多いので特に課題は無い。

② 今後の改善方策

継続して適正な運営をしていく。

③ 特記事項

特に無。

④ 学校関係者評価委員会コメント

大塚委員：当校の運営はしっかりしているイメージがある。

大橋委員：コンプライアンスなど問題ない。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

システム化はされているが、上手く活用されていない箇所がある。また、カリキュラムについて見直しはしているが、ブライダルの現場は短いスパンで流行が変わるので、どこまで何をしたらいいの分からないことが現状である。

② 今後の改善方策

現場の方との接触機会を多くして、学校側が情報を取りに行く。

③ 特記事項

特に無。

④ 学校関係者評価委員会コメント

大塚委員(ブライダルコーディネーター科について):目標で考えると明確にされていると思う。現実に沿っている。今の生徒は言われたことはしっかりとできるが、プラスアルファのことが出来ない。その力が今後必要だと感じる。
大橋委員(ウェディングプランナー科について):プランナーが必要な力は 何も無いところでも挙式を行える想像力と言われてきたが、現在のブライダル業界では、アウトドアウェディングや、ビジュアル的な物はもう古い域になってきている(現在はもうインスタ映えはもう古いとの意見もでてきているとの事)

ゼロから想像(創造)するのは大事だが、お客様に対していかに心を重ねていけるかが更に必要で、人に興味を持つなどが大事で、そのような生徒を育てていくことが専門学校には必要だと感じる。そのため、生徒が学校生活の中で、人に興味を持って寄り添う事が大事で、それに気がついて動けるように成長できるかどうか必要。

藤森委員:現在の高校生は、ゼロから作りだす教育を受けてきていない。そんな仕事に抵抗がある。事務などの決められたことをこなす仕事がやりやすいと感じるので、ブライダル関係を目指す専門学生は大塚委員や大橋委員が言われた力を付けることはとても大切だと感じる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

① 課題

昨年度は(2018年度)、退学率が2017年度よりも悪くなってしまった。

退学理由は目的喪失、もしくは人間関係が多かった。

② 今後の改善方策

目的喪失の原因はインターンシップが多い。実際に行く前の学校での動機付けが大切だと感じている。

③ 特記事項

特に無。

③ 学校関係者評価委員会コメント

大橋委員(ウェディングプランナー科について):ブライダルのサービスの実習もファミレス感覚と同じで行き、ブライダルはファミレスではないので厳しさもあり、その厳しさに納得感がないため、インターンシップに行く前に学校での事前オリエンテーションがとても重要だと思う。

大塚委員(ブライダルヘアメイク&ドレス科について):先ほどの通り、言われたことはしっかりと出来るので、インターン実習であるため、企業様にもそのレベルをしっかりと理解していただけるように学校からのアプローチも必要ではないのか。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2

① 課題

就職に関しては整備はされていると思う。

卒業生支援としては、昨年度までは「三幸リンク」からの発信のみであったが、今年度は夏に着付けのセミナーを実施予定。

④ 今後の改善方策

卒業生に対しての支援体制が整っていなかったため、卒業生からもヒアリングをして卒業生が必要な事をしっかりと体制化していきたい。

⑤ 特記事項

特に無。

⑥ 学校関係者評価委員会コメント

大塚委員：卒業支援はとてもよいことだと思うので、何かお手伝いできることがあれば、是非、協力させていただきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

特に問題無。

② 今後の改善方策

継続して適正な教育環境を整備していく。

③ 特記事項

特に無。

⑥ 学校関係者評価委員会コメント

大塚委員:特に問題ないと感じる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学生の受入れ募集に関しては三幸学園全体で運営していることが多いので特に課題は無い。

② 今後の改善方策

継続して適正な運営をしていく。

③ 特記事項

特に無。

④ 学校関係者評価委員会コメント

藤森委員：貴校の募集活動は適性に行われていると思う。特に高校を卒業した生徒の情報をいただけるのは、高校から見てとても安心感がある。継続して実施していただきたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

一昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

法令等の遵守に関しては三幸学園全体で運営していることが多いので特に課題は無い。

② 今後の改善方策

継続して適正な運営をしていく。

③ 特記事項

特に無。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特に無。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	1

① 課題

社会貢献に関しては、具体的に実施が出来ていない。

② 今後の改善方策

具体策を検討・実施ができるようにしていきたい。

近隣の商店街と連携をして社会貢献・地域貢献を検討している。

③ 特記事項

特に無。

④ 学校関係者評価委員会コメント

大塚委員：実現できるように是非、頑張ってください。何か協力できることがあれば、遠慮なくおっしゃっていただきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価委員会の方々からは、自己評価は概ね適正であると評価をいただいた。システムとしてはしっかりと構築をされていると感じるため、さらによりよい学校づくりのために、より浸透・活用をして学校運営をしていきたい。また、学校に関係する方々が、学校と一緒に生徒のことを考えて意見をいただけることで、新しい発見や改善案等があり、より社会に貢献できる学校づくりを進めていきたい。何よりも頂いたご意見をしっかりと改善案として実行していくことが大切で、その経過を随時、委員の皆様にはお伝えしていき、委員会だけではなく、普段からコミュニケーションを密に取らせていただき、都度、ご意見をいただきたい。その積み重ねがよりよい学校づくりになると思うので、引き続き皆さまにはご協力をお願い致します。

以上